

語註・典故・作詩メモ	
<p>敲枕  枕を傾けて聞く。また、枕元で耳を傾ける。</p> <p>雲衢  くもの往来する道。天空をいう。</p> <p>曉晨  あかつき。</p> <p>従容  ゆつたりとする。</p> <p>連翠  樹木などのつらなつた緑色。</p> <p>風花  かぜに散る花。</p> <p>天籟  自然の音。風の音など。</p>	

結句		転句		承句		起句		詩題
連	○	従	○	雲	○	敲	○	雨後山行
翠	●	容	○	衢	○	枕	●	
風	○	處	●	日	●	山	●	
花	○	處	●	出	●	中	○	
天	○	行	●	曉	●	春	○	
籟	●	應	○	晨	○	雨	●	
鳴	◎	好	●	晴	◎	聲	◎	庚韻

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ	

読み下し文			
連翠	風花	天籟鳴る	
従容	処々	行きて応に好かるべし	
雲衢に	日出でて	曉晨晴なり	
敲枕	山中	春雨の聲	
雨後山行			

作詩日	平仄式	名前
令和四年五月九日	仄起式	牛山 知彦





語註・典故・作詩メモ

「初夏 新緑の山に登る。雨後の快晴に緑が一段と鮮やかに見える。中腹で目を上げれば、頂が迫ってきた」ことを詩にしてみました。

結句		転句		承句		起句		詩題
望	●	清	○	天	○	初	○	
上	●	風	○	高	○	夏	●	
碧	○	流	○	雨	●	山	○	
峰	○	汗	●	後	●	行	○	
在	●	到	●	樹	●	新	○	
眼	●	中	○	更	○	緑	●	
前	◎	腹	●	鮮	◎	巔	◎	先韻

(七言絶句)

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

その他のメモ

--	--	--	--	--	--	--	--

読み下し文							
上を望めば	碧峰眼前に在り	清風汗を流し	中腹に到る	天高し雨後	樹更に鮮やかなり	初夏山行	新緑の巔
						雨後山行	

作詩日	令和四年五月	平仄式	仄起式	名前	高橋 幸雄
-----	--------	-----	-----	----	-------

語註・典故・作詩メモ			
		芳朝：春の朝 蒼蒼：青々として 宏遠：規模が 大きく広く奥 深いこと	

結句	転句	承句	起句	詩題
山 ○	南 ○	静 ●	芳 ○	雨霽登丘
頭 ○	海 ●	昼 ●	朝 ○	
新 ○	蒼 ○	登 ○	雨 ●	
緑 ●	蒼 ○	丘 ○	霽 ●	
早 ●	宏 ○	眺 ●	暖 ●	
春 ○	遠 ●	望 ●	風 ○	支韻
滋 ◎	麗 ●	披 ◎	吹 ◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ			

詠み下し文			
山頭新緑に早春滋 <small>さんとうしんりよく そうしゅんしげし</small>	南の海は蒼蒼宏遠に麗し <small>みなみうみ そうそうこうえん うるわ</small>	静昼丘に登り眺望披ける <small>せいちゆうおか のぼ ちやうぼうひら</small>	芳朝雨霽風吹く <small>ほうちやうあめ はれるかぜふ</small>
			雨霽丘に登る <small>あめはれるおか のぼ</small>

作詩日	平仄式	名前
R 4 . 2 . 2 5	平起式	武田 一郎



神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

語註・典故・作詩メモ	結句		転句		承句		起句		詩題
雨後は足下が覚束ないので、林行にしました。	淡	●	老	●	無	○	雨	●	雨後林行
	淡	●	鶯	○	人	○	後	●	
	徂	○	啼	○	林	○	薰	○	
	春	○	処	●	下	●	風	○	
	絶	●	歩	●	転	●	带	●	先韻
	俗	●	幽	○	清	○	靄	●	
	縁	◎	径	●	妍	◎	煙	◎	

その他のメモ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

居

淡々たる徂春俗縁を絶つ <small>たんたん そしゆん ぞくえん たつ</small>	老鶯啼く処幽径を歩めば <small>らうおうな とこるゆうけい あゆ</small>	人無き林下は転た清妍たり <small>ヒトナ リンカ ウタタ セイケン</small>	雨後の薰風は靄煙を帯び <small>うご くんふう あいえん お</small>	詩題の読み <small>しだい よ</small>
---	--	---	--	-------------------------------

作詩日	平仄式	仄起式	名前
令和四年五月十日			古川 彌

語註・典故・作詩メモ			
森然 樹木のこんもりと茂りたつさま			

結句	転句	承句	起句	詩題
森 ○	偏 ○	翠 ●	雨 ●	
然 ○	愛 ●	葉 ●	餘 ○	雨後山行
風 ○	蒼 ○	鮮 ○	曳 ●	
冷 ●	岑 ○	新 ○	杖 ●	
透 ●	吹 ○	樹 ●	作 ●	
肌 ○	萬 ●	向 ●	山 ○	庚韻
清 ◎	緑 ●	榮 ◎	行 ◎	

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

その他のメモ			
承句 入耳潺潺溪水聲			

読み下し文				
森然風は冷かに 肌を透して清し	偏に愛す翠岑 万緑を吹くを	翠葉鮮新にして 樹榮に向かう	雨余杖を曳き 山行を作す	雨後山行

作詩日	平仄式	名前
令和4年4月	平起式	松本祐輔
R4年5月提出		

語註・典故・作詩メモ	
昔を思い出して作り直しました。二十歳前半の頃、時間があれば丹沢の塔が岳に上っておりました。コースは比較的短時間で登頂できる大倉尾根(通称バカ尾根)コースです。	麓からの標高差が1,200メートルにもおよぶ全長7キロの上り坂が続いています。当時は、ふもとに水田の広がる長閑な風景がありました。

結句	転句	承句	起句		
拂	喘	独	雨	雨後山行	
汗	達	歩	晴		
杳	峰	泥	風		
看	頭	濘	息		
稻	新	急	耀		
畦	景	坂	春		陽韻
郷	色	長	陽		

その他のメモ	
泥濘(でいねい)・ぬかるみ	稲畦(とうけい)・稲田、稲を植えた田

読み下し文				
汗 <sup>アセ</sup> を拂 <sup>ハラ</sup> い杳 <sup>ハルカ</sup> に看 <sup>ミ</sup> る稻 <sup>トウ</sup> 畦 <sup>ケイ</sup> の郷 <sup>サト</sup>	喘 <sup>アエ</sup> ぎ達 <sup>タツ</sup> す峰 <sup>ホウ</sup> 頭 <sup>トウ</sup> 新 <sup>シン</sup> 景 <sup>ケイ</sup> 色 <sup>シヨク</sup>	独 <sup>ヒト</sup> り歩 <sup>アユ</sup> む泥 <sup>デイ</sup> 濘 <sup>ネイ</sup> 急 <sup>キウ</sup> 坂 <sup>ウハ</sup> 長 <sup>チガ</sup> し	雨 <sup>アメ</sup> 晴 <sup>ハ</sup> れ風 <sup>カゼ</sup> 息 <sup>ヤ</sup> みて春 <sup>シュン</sup> 陽 <sup>ヨウ</sup> 耀 <sup>ウガヤク</sup>	雨 <sup>ウ</sup> 後 <sup>ゴ</sup> 山 <sup>サン</sup> 行 <sup>コウ</sup>

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

作詩日	平仄式	平起式	名前
令和二年五月一日			三浦 昭二

語註・典故・作詩メモ

風動・・・風が激しく吹く

結句	転句	承句	起句	詩題
煌 ○	途 ○	巡 ○	早 ●	雨後山行
湖 ○	次 ●	鉢 ●	朝 ○	
遥 ○	下 ●	雨 ●	頂 ●	
望 ●	山 ○	中 ○	極 ●	
感 ●	雲 ○	風 ●	気 ●	
銘 ○	内 ●	動 ●	軒 ○	
強 ◎	出 ●	剛 ◎	昂 ◎	(陽韻)

神漢連 九詩期会 詩箋 【七言絶句】

その他のメモ

約60年前、富士登山をした。雨中山小屋にも泊まらず頂上を極め、お鉢巡りをして下山した。途中、天候が回復すると、眼下に山中湖が見えた。この情景を思い出し、作詩した。

読 み 下 し 文

遥に煌湖を望み感銘強し

下山の途次 雲内を出る

雨中鉢を巡るも風動剛し

早朝頂きを極め 意気軒昂たり

雨後山行

作詩日 令和四年五月十一日

名前

森谷正彦

語註・典故・作詩メモ

昨年の詩題「林亭対客」の中で「妍を争う紅葉」とい動詞  
始まる表現を添削いただきました。この表現を取り入れた  
今回使ってみました。

結句		転句		承句		起句		詩題
連	○	雲	○	山	○	争	○	雨後山行
峰	○	上	●	徑	●	鮮	○	
踏	●	瞰	●	人	○	新	○	
破	●	臨	○	蹤	○	緑	●	
近	●	相	●	輕	○	雨	●	
黄	○	州	○	脚	●	餘	○	
昏	◎	海	●	跟	◎	天	◎	元韻

(七言絶句)

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

その他のメモ

結句は「連峰踏破已黄昏」が良いか  
曾て初夏に丹沢山塊を縦走したことが有った。緑に囲まれた  
美しい山行を思い出した。

読み下し文			
連峰踏破すれば黄昏近し	雲上より瞰臨す相州の海	山径人蹤脚跟輕し	鮮を争う新緑雨余の天
雨後の山行			

作詩日	平仄式
令和四年五月	平起式
	名前

諸星暢義

神奈川県漢詩連盟九詩期会【詩箋】

(七言絶句)

詩題	起句				承句				転句				結句							
	雨	後	山	行	前	夕	宿	中	今	朝	嶽	麓	風	煖	空	碧	一	路	山	巔
庚韻																				

語註・典故・作詩メモ

起句・承句は搜韻で探した南宋・楊萬里の詩の真似をした。  
 春盡舍舟餘杭雨後山行二首其一(春尽きて舟を余杭に舍り…  
 前夕船中索筆眠 前夕船中に筆を索めて眠り  
 今朝山下覺衣單 今朝山下に衣の單なるを覺ゆ  
 春歸便肯平平過 春歸りて便ち肯く 平平に過ぎ  
 須做桐花一信寒 わずかに(?) 做る桐花一信の寒  
 餘杭は杭州市の地名か。読みは山口独断解。

平仄式	仄起式	名前	山口 幸雄
作詩日	2022年5月11日		

その他のメモ	<p>結句別案                  聳立山巔踏露行 聳え立つ山巔 露を踏みて行く                  ・自分でも、お題に合わせてなんとか語句を整えただけで面白くない、と思います。</p>
--------	---

雨後山行	うご さんこう
前夕 宿中に雨声を聞き	ぜんせき しゆくちゆう うせい き
今朝 岳麓に天晴るるを見る	こんちよう がくろく てんは
風煖かく空碧く 叢林は緑なり	かぜあたた そら あお そうりん みどり
一路山巔へ 露を踏みて行く	いちろ さんてん つゆ ふ ゆ